



●収量アップ、品質アップへの最大の課題

- ① 強度の酸性土壌により、イネの根が様々な栄養分を吸いにくくなっていること
 - ・ 収穫期のイネの根が「真っ赤」になっていると想定される（※実際の確認が必要）
 - ・ イネの根の赤化は、酸化鉄による根のコーティングにより引き起こされます。
 - ・ イネの生理として、強酸から根を守るために起こる現象
 - ・ 酸には強くなりますが、デメリットとしてその他の肥料成分、ミネラルも吸いにくくなります。
 - ・ この赤化が、収量の伸び悩みや食味の低下などを引き起こしていると考えられます。

●酸性土壌克服の対策

- ① 秋うない（秋の収穫後すぐに、肥料などを散布し、耕す作業です）
 - ・ pHを6.5周辺へ調整し、残っている稲わらなどの未分解有機物の早期分解を促す。

（作業スケジュール）

土壌分析	8月	簡易土壌分析器による分析
稲刈り	10月	
米ぬか 散布	10月	有機物を分解する微生物のエサとなります 10aあたり3~4kg、鶏糞でもOK
マグネシウム、石灰肥料散布	10月	Phをアルカリへ、不足するミネラル分の補給、 微生物の活性化
納豆菌 散布	10月	有機物を分解する微生物を増やします

※一連の作業を、できるだけ雪が降る前に終わらすこと。

できれば、地温が18度以上ある状態が好ましい。

この作業がうまくできれば、春の雪解けも早まります。

※コストが安く、十分な効果が期待されるマグネシウム肥料、石灰肥料を見つける必要あり。

●中国黒竜江省の米づくり環境評価

① 酸性土壌の克服さえできれば、世界的にも有数の米産地となる可能性あり。

評価項目	評価	備考
水質	◎	日本では過剰になりがちな窒素分などの汚染がない
水量	◎	豊富な雪解け水により、水枯れの心配なし
水温度	◎	夏場にも低温を維持しやすい
気候	△	耕作可能期間が短い（5月～10月上旬まで）
ミネラル含有量	○	マンガン、鉄分が非常に豊富 マグネシウム、石灰がやや不足以外は、全く問題なし

●その他改善が必要な工程

評価項目	評価	備考
苗作り	×	苗がひょろひょろ。窒素分が足りない！？ 苗づくりの工程をよく見直す必要あり。
品種選定	？	140日以内の早稲種、酸性土壌に強い品種を探す必要あり
夏場の水管理	×	夏場の夜水温を下げるために、夜水を流す管理へと変更する必要あり
保管方法	×	もみがらつき低温保管がベスト

※その他工程については、お米専門農家の意見を聞く必要があります